

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：道路構造	
日付：11月3日（月）曜日、セッション時間：13：15～15：15	
司会者名（所属）：川本義海（福井大学）	
討 議 内 容	<p>セッション全体：</p> <p>おもな論点は、道路上で発生する交通現象または道路本体の保全状態を表現するための評価指標の妥当性とその有用性、道路の性能評価の方法ならびにその基準、信頼できるデータの取得方法ならびにモデル推計のためのデータ補完の方法論、実用に供する成果の適用・応用方法についてであり、これらを中心に議論した。</p> <p>いずれもこれからの道路交通の安全で安心できる環境を提供するために、実際の現場における実測および実験によって交通現象や道路状態のモデル化と推計ならびに妥当性の検討をおこなっており、それらの現象解明に大きく貢献する内容であった。今後の課題としては、得られたモデルの適用範囲やその運用方法について実用レベルに照らして検討することが挙げられた。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(267) 武本東（独）土木研究所寒地土木研究所）</p> <p>往復2車線道路の追越挙動の安全性を評価するために提案された「追越限界密度」について中心に議論された。車群の影響を考慮することの必要性、追越挙動を説明する諸要素について、一般に提示された数値ではなく実データを用いて再現性を高めること、観測から得られるデータに加え、クリティカルな状況を実験的に設定し、そこから確保すべき安全性とそのための道路構造を模索することの有用性などについて指摘があった。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(268) 平澤匡介（独）土木研究所寒地土木研究所）</p> <p>区画線（外側線）塗り替え基準の提案に対して、その視認性評価の方法、塗り替え基準の置き方と効率的運用のための損傷程度の判定・予測方法について中心に議論された。視認性評価に用いられた価格感度測定法（PSM）の意味と本研究における有用性、実験被験者属性の違いによる結果の差の有無、コスト削減への有用性に関する質疑応答があった。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(269) 中辻隆（北海道大学）</p> <p>圧雪状態の路面における摩擦係数を推定する手法について、取得データから信頼できる推計・補間をおこなうためのデータの平準化の方法、またその妥当性と有用性について中心に議論された。実用レベルとして1km（2km）区間長での近接区間同士の相関を用いて当該区間の摩擦係数を自律的に推定できるが、連続的な実データの欠測への対応としてデータ取得制度とその確率の向上も求められるなどの意見および質疑応答があった。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(270) 平位高浩（九州大学大学院）</p> <p>道路冠水時の交通特性の定量化の方法について、画像情報の活用を提案した解析手法ならびに交通特性を表す諸要素のモデル化の妥当性と実際の適用場面について中心に議論された。自由走行速度、最小車間距離の導出方法について、提案のような方法に理論的矛盾や無理がないか、また実験レベルで実証的にその信頼性を検証することへの期待などについて質疑応答があった。</p>